

《千葉県DV防止・被害者支援基本計画（第4次）》
平成30年度施策 評価シート

評価コード 16

施策の方向	職務関係者の資質向上
担当課	男女共同参画課・女性サポートセンター・教育庁教育振興部生涯学習課

1 事業の概要

基本目標	VI	施策の方向	11	施策の内容	・DV職務関係者研修等の充実
当初予算額(千円)	703		決算額(千円)	619	
事業の概要・目的	<p>124市町村、関係機関への講師派遣（男女共同参画課・女性サポートセンター） 市町村や裁判所など関係機関が開催する研修や講演会等へ職員を講師として派遣するなど、研修機会の確保に努める。</p> <p>125国等で主催する研修への参加（男女共同参画課・女性サポートセンター等） 内閣府等で実施する様々な研修や独立行政法人国立女性教育会館で開催される研修等に職員を派遣し、資質向上を図るとともに、情報収集に努める。</p> <p>126市町村家庭教育相談員及び子育てサポーター等への研修（教育庁生涯学習課） 市町村相談員及び子育てサポーターリーダーを養成し、県内の家庭教育相談体制の強化を図る。</p>				
数値目標など					
指標名等	-				
目標	-	実績	-		

2 事業実績・評価等

(1) 施策の実施結果

<p>124女性サポートセンター【当初予算0円・決算0円】 市町村や国等の実施する研修に県職員を講師として派遣した。 市町村派遣 1回（男女課1回） 国等派遣 1回（女サポ1回） 県関係機関派遣 5回（男女課1回、女サポ4回）</p> <p>125男女共同参画課・女性サポートセンター等【当初予算0円・決算0円】 国等で開催される研修等に職員を派遣し、資質向上及び情報収集に努めた。 関東甲信越地区婦人保護事業研究協議会 幹事県として7/20に開催 全国婦人相談所長及び婦人保護主管係長研究協議会 3名参加（男女課2名・女サポ1名） 女性に対する暴力被害者のための官官・官民連携促進ワークショップ事業 14名参加 若年層を対象とした女性に対する暴力の予防啓発のための研修 2名参加（男女課1名・女サポ1名） 女性関連施設相談員研修 1名参加（女サポ1名） 婦人相談所等指導者研修 1名参加（女サポ1名）</p> <p>126生涯学習課【当初予算703千円・決算619千円】 家庭教育研修講座を講座Ⅰ・講座Ⅱ各4回、全16講座の中の1講座「家庭教育相談と倫理・法律」において、ちば女性と子どものサポートセンター代表 臨床心理士 有馬和子 氏を講師として招聘し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、支援マップ（DV被害者支援体系図）、配偶者暴力相談支援センターにおいて相談等を行ったことの証明書による支援について等を内容とした講座を実施した。 ・講座受講者43名、研修満足度91.8%。 ・以下、受講者からの感想より ・基本的な法律もきちんと理解していない自分がいたことに反省し、勉強しなければと感じた。 ・法律など意識していなかったが、知ることで、問題を解決する糸口が広がると思う。 ・DVなど法律を頭に入れた上で冷静に対処していかなければならないという思いを新たにされた。 ・専門職として相談者に適切に助言を行うことの責任の重さについて強く意識することができた。</p>

(2) 評価（別紙視点参照）

124県職員の派遣により、各機関において研修機会を確保できた。

125相談内容が複雑化・多様化していることから、よりきめ細やかな支援が求められており、相談業務に携わる職員の専門知識の習得、資質向上を継続して図っていく必要がある。

126・暴力を許す環境を生む夫、妻、周囲に潜在化する意識について考えることができた。

・支援マップ（DV被害者支援体系図）により、安全確保支援・法的手続支援・生活再建支援のメニューについて、共通理解を図ることができた。

・配偶者暴力相談支援センターにおいて相談等を行ったことの証明書の使用目的と支援の内容について、共通理解を図ることができた。

3 課題及び改善すべき点はあるか、ある場合、今後どのように対応していくのか。

<課題・改善すべき点>

124DVや児童虐待の増加に伴い、様々な機関や相談員に相談が寄せられるようになっていることから、引続き、広く研修機会を確保していく必要がある。

125相談内容が複雑化・多様化していることから、よりきめ細やかな支援が求められており、相談業務に携わる職員の専門知識の習得、資質向上を継続して図っていく必要がある。

126・市町村において家庭教育支援活動及び相談業務に関わる支援員等の知識・技能の習得及び資質の向上等、人材の育成を図る本講座においてDVをどう扱うか課題である。

<今後の方針>

124引続き職員の派遣や家庭教育研修講座を実施し、幅広い機関における研修機会を確保する。

125国等の開催する研修への職員の参加により、職員の専門知識の習得、資質向上を図っていく。

126・DV家庭に育つ子供の様子として、「忘れ物が多い」という調査結果が出ている。家庭教育が不十分であることが推測できる。DV家庭における家庭教育をいかに支援するかという視点で講座を構成していきたい。また、そのための講師を探していきたい。

4 委員意見

各種研修会が計画的に開催されており、相談業務の質の向上のための機会を確保していることを評価する。

就学時健康診断での講義は、効果的な取組と評価でき、今後も積極的に実施してもらいたい。

DVに関する研修の要望は高まっており、引き続き、研修の機会を増やしてもらいたい。